

台風第14号の接近に伴う農作物被害防止対策

令和3(2020)年9月15日

下都賀農業振興事務所

台風第14号は、16日にかけて東シナ海でほとんど停滞しますが、17日頃から日本海へ進み、温帯低気圧に変わって、日本列島に接近・通過する予想です。

広い範囲で風や雨が強まることが予想されることから、以下の技術対策により被害防止に努めてください。また、農作業及び農地・農業用施設の見回りは気象情報を十分に確認し、人命を最優先に二次災害の防止を徹底してください。

I 共通

1 大雨対策

- (1) 大雨による冠水等が心配されるほ場では、事前に排水溝を設けるなど、対策を講じておく。
- (2) ゴミや刈り払った雑草が水路を塞がないよう、事前に取り除いておく。
- (3) 農業用資材（被覆資材や支柱等）が用水路に流れ込まないように、適切な場所に保管する。

2 防風網・防鳥網・多目的防災網等の点検、補修

- (1) 網が飛ばされたり破られたりしないよう固定状況を点検するとともに、破損部があると強度が低下するので補修をしておく。
- (2) 目が細かい多目的防災網等を展張しているほ場は、網の外側に支柱等を建て棚線に固定する。

3 ハウスの点検、補修、補強

- (1) 被覆資材の破損部や固定が不十分なところがないか点検し、補修を行っておく。
- (2) 筋交いにより奥行き方向への倒壊を防止する。また、ハウスの肩部を引っ張り資材や、つかえ棒で補強し、変形を防止する。
- (3) 使用していないハウスは、天井や妻面のビニールをはずして風を抜けやすくし、施設の損壊を防ぐ。

4 事後対策の準備

- (1) 被害後、速やかに回復措置がとれるよう、排水対策や施設等の修復、病害防除等の準備をしておく。

II 普通作物

1 水稲

- (1) 収穫適期を迎えている水稲は、台風の接近前に速やかに収穫する。
- (2) 出穂間もない品種では、台風通過後の乾燥した強風（フェーン）による被害（登熟不良、白穂の発生、青枯れ等）を軽減するため、やや深水とする。
- (3) 冠水したほ場は、速やかに排水に努める。
- (4) 降雨により畦畔や路肩が軟弱になり、コンバインの横転など農作業事故が発生しやすくなるので、十分注意する。
- (5) 流木、ゴミ等は、コンバインに影響がない程度まで取り除く。

(6) 倒伏した稲は、晴れ間を見て株起こしを行い、穂発芽を防止する。

2 大豆・小豆・そば

- (1) 大雨による冠水及び浸水等が心配されるので、排水溝の点検をしておく。
- (2) 大豆は、葉焼病や斑点細菌病の予防のため、台風通過後に登録薬剤を散布する。
- (3) 倒伏したそばは、無理に起こすと折れてしまうので、自然に起き上がるのを待つ。

Ⅲ 野菜

1 全般

- (1) 強風対策として、ハウスやネットの点検・補修・補強を行う。
- (2) ほ場の冠水及び浸水が懸念されるので、排水溝の点検、再整備をしておく。

2 いちご

- (1) 炭疽病が発生しやすくなるので、排水対策を行うとともに、発生が懸念されるほ場では防除を実施する。育苗期と本ばで使用できる農薬が異なるので注意する。
- (2) 定植作業が大幅に遅れる場合は、苗の花芽分化を確認後、葉面散布等による追肥を行う。

3 なす、きゅうり、トマト等

- (1) 強風による損傷や倒伏を軽減するため、茎や枝を支柱やネット、誘引線によく固定しておく。また、被害を軽減するため、収穫可能な果実は早めに収穫する。

4 ねぎ

- (1) 強風による倒伏や茎折れを軽減するため、土寄せを行う。

5 なら

- (1) 強風により倒伏が懸念される株は、葉先を刈り詰める。

Ⅳ 果樹

1 共通

- (1) 収穫の適期を迎えている果実は、早急に収穫する。
- (2) 収穫が終了したほ場の多目的防災網等は、できる限り収納する。

2 なし・ぶどう等（棚仕立て果樹）

- (1) 強風による枝や果実の損傷を軽減するため、結果枝等を棚によく固定しておく。

3 りんご等（立木仕立て果樹）

- (1) 強風による枝や果実の損傷を軽減するため、側枝等太枝に支柱を設置したり、結果枝どうしを結束するなどして、固定しておく。

4 苗木

- (1) 強風による倒伏を軽減するため、支柱に固定しておく。特に、育苗中の「大苗」は倒伏しやすいので十分注意する。

Ⅴ 花き

1 施設花き（パイプハウスに作付けした品目）

- (1) 収穫中のハウスは、被覆資材の破損部や固定が不十分なところがないか点検し、補修を行っておく。収穫が終了したハウスは、ビニールをはずすなど、風を抜けや

すくし、施設の損壊を防ぐ。

(2) ほ場が冠水しないように、事前に排水溝を設けるなど、対策を講じておく。

2 露地ぎく

(1) 支柱やネットのゆるみを直し、十分に補強する。ネット上げの作業が遅れている場合は、所定の位置までネットを上げておく。

VI 畜産

1 畜舎

(1) カーテン等の固定状況を点検し、補修、補強しておく。

(2) 雨水の流入が心配される場合は、土のう等により対策を講じておく。

(3) 車両や飼料、機器を水没しない場所へ移動しておく。

(4) 風雨により浸水する可能性のある電気設備の防水対策を講じておく。

2 飼料用とうもろこし

(1) 畑の排水路を確保する。

(2) 収穫適期を確認し、早めに刈り取りを行う。

(3) 絹糸抽出期前後で被災した場合、折損していないもの、軽微な倒伏は回復の可能性があるので、適期収穫に努める。折損したものは速やかに収穫し、必要に応じて調製時に水分調整や、添加剤（グルコースや乳酸菌等）を利用する。

(4) 収穫適期に被災した場合は、今後の気象情報に注意し、ほ場に機械が入れる状態になったら早めに収穫する。収穫時は土砂が混入しないように高刈りする。土砂の付着の著しいとうもろこしは、サイレージの品質劣化等の懸念があるので収穫しないようにする。倒伏、高水分、刈り遅れはサイレージの品質低下が避けられないので、調製時に添加剤を利用する。また、給与に際しては、必要に応じて栄養成分分析を行い、栄養価、嗜好性等を配慮し、補助飼料を給与する等家畜の生産性が低下しないよう注意する。

3 停電による搾乳不能に備えて

(1) 発電機の準備と燃料の確認を行っておく。

(2) 停電時に搾乳する場合は高泌乳の牛から行う。また、濃厚飼料の給与は控える。

4 粗飼料の浸水、流出に備えて

(1) 粗飼料をほ場等に保管している場合、隣接する河川の急激な増水による粗飼料の浸水、流出が心配される場合は、早めに移動しておく。

(注意)

※ 農薬の使用に当たっては、使用基準（適用作物、希釈倍数、使用時期、使用回数等）を厳守する。同一成分の使用回数にも制限があるので注意する。

※ 農薬散布に当たっては、飛散防止に十分注意する。

※ 倒伏、冠水等により土壌等が付着すると、放射性物質に汚染されるおそれがあるので、収穫物に混入しないよう注意する。